年間授業計画　新様式例

高等学校 令和６年度（1学年用）　保健体育　科目 保健

教　科：保健体育　科　目：保健　単位数：1　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　4 組

教科担当者：（１組：三品　）（２組：三品）（３：山内）（４組：山内）（　組：　）（　組：　）

使用教科書：（現代高等保健体育　大修館書店　）

教科　保健体育　の目標：

【知識及び技能】運動の特性に応じた技能等及び健康安全についての理解と技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康について課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。

科目　保健　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
健康・安全についての理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康について自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進や環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 知識	領域 思	領域 学	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	体のつくりと働き	消化器系・骨格系・筋肉系について	○	○	○	場所と名称を覚えて表記ができる。 それぞれの働きを説明することができる。	○	○	○	3
	健康の考え方と成り立ち	健康の考え方と成り立ちについて	○	○	○	健康の考え方と成り立ちが理解できている。	○	○	○	1
	私たちの健康のすがた	健康の指標、健康問題について	○	○	○	平均寿命や乳児死亡率等についてを理解できている。 健康問題のの変化を考えることができる。	○	○	○	1
	生活習慣病の予防と回復	生活習慣病の予防と回復について	○	○	○	生活習慣病の種類と要因を説明できる。 生活習慣病の予防について説明できる。	○	○	○	2
	がんの予防と回復	がんの予防と回復について	○	○	○	がんの種類と要因や予防について説明できる。 がんの治療法について説明できる。	○	○	○	2
	運動と健康	運動と健康について	○	○	○	健康と運動の関係について説明できる。	○	○	○	1
	食事と健康	食事と健康について	○	○	○	健康と食事の関係について説明できる。	○	○	○	2
2学期	休養・睡眠と健康	休養・睡眠と健康について	○	○	○	健康と休養・睡眠の関係について説明できる。	○	○	○	1
	喫煙と健康	喫煙と健康について	○	○	○	喫煙者や周囲の人に起こる害について説明できる。 喫煙対策について説明できる。	○	○	○	2
	飲酒と健康	飲酒と健康について	○	○	○	飲酒による健康への影響を説明できる。	○	○	○	2
	薬物乱用と健康	薬物乱用と健康について	○	○	○	薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響を説明できる。	○	○	○	1
	精神疾患の特徴精神疾患への対応	精神疾患の特徴精神疾患への対応について	○	○	○	精神疾患の発病の要因や症状を説明できる。 精神疾患を予防する方法を説明できる。	○	○	○	3
	現代における感染症の問題	現代における感染症の問題について	○	○	○	現代における感染症について説明できる。	○	○	○	2
	感染症の予防	感染症の予防について	○	○	○	感染症の予防対策について説明できる。	○	○	○	1
	性感染症・エイズとその予防	性感染症・エイズとその予防について	○	○	○	性感染症・エイズの予防と対策について説明できる。	○	○	○	2
3学期	健康に関する意思決定・行動選択	健康に関する意思決定・行動選択について	○	○	○	意思決定・行動選択について説明できる。	○	○	○	1
	ヘルスプロモーションと健康にかかわる環境づくり	ヘルスプロモーションと健康にかかわる環境づくりについて	○	○	○	ヘルスプロモーションと健康にかかわる環境づくりについて説明できる。	○	○	○	1
	安全についての理解を深める	自助・共助・互助について 交通事故防止	○	○	○	安全のための行動について説明できる。 交通事故における責任を3つに分けて説明できる。	○	○	○	3
	応急手当についての理解を深める	応急手当の意義について 日常的な応急手当	○	○	○	応急手当の意義を説明できる。 日常的な応急手当ができる。	○	○	○	2
	心配蘇生法についての理解を深める	心肺蘇生法	○	○	○	心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 心肺蘇生法を行うことができる。	○	○	○	2 合計 35